

2018
No.88

[2018年3月~5月号]

青山学院大学

<http://www.aoyama.ac.jp/>



AGU NEWS

AOYAMA GAKUIN UNIVERSITY NEWS



第94回東京箱根間往復大学駅伝競走

史上6校目4連覇総合優勝!!

大会新記録も同時達成!



©報知新聞社

Aoyama Gakuin since 1874



第94回東京箱根間往復大学駅伝競走 大会新記録で4連覇!!

4連覇の重圧がかかった今年の箱根駅伝。2018年1月2日(火)の往路、1区の鈴木壘人選手がトップと25秒差の5位でタスキをつなぐと、昨年は4区を走った森田歩希選手が花の2区で区間賞の快走を見せ、単独2位に躍り出ます。3区は4年連続出場となった田村和希選手が区間2位の力走、当日変更で出走となった4区の梶谷瑠哉選手は後半苦しい走りとなりましたが順位は2位を維持。5区の竹石尚人選手は2分3秒あったトップとの差をぐんぐん縮め、脚がけいれんし2度立ち止まるアクシデントがありながらも、最終的にはトップと36秒差の往路2位でゴールしました。1月3日(水)の復路は3年連続となる山下り6区のエキスパート、小野田勇次選手が15キロ過ぎにトップに立つと、後続と52秒差をつけ区間新記録まであと2秒と迫る区間賞の走りで、

箱根駅伝初出場となる林奎介選手にタスキを託しました。林選手は最初から区間記録を更新するペースで快調に走り、2位との差を3分28秒にまで広げ区間新記録を樹立。今大会の金栗四三杯(MVP)を獲得しました。3年連続で8区を任された下田裕太選手も、8区で史上初となった3年連続区間賞の走りで後続を完全に引き離します。箱根駅伝初出場となった9区の近藤修一郎選手は、走れなかった同級生の思いも力にして、アンカーヘタスキをつなぎました。橋間貴弥選手は安定した走りでメンバーの待つ大手町へ。往路2位から復路で逆転し、総合タイム10時間57分39秒の大会新記録で、史上6校目の総合優勝4連覇を達成しました。応援してくださった皆さま、たくさんのご声援をありがとうございました。



Message

皆さまからの大きな声援が
選手の力になりました

内山 義英

陸上競技部部長 (国際政治経済学部教授)

箱根駅伝の2日間、沿道やテレビから応援いただき、誠にありがとうございました。箱根駅伝は10区間すべてが20キロ以上という長距離のため、どの選手にも途中で苦しい時間が必ず訪れます。そんなときに沿道からいただく声援は選手にとって大きな励みとなり、力が湧きあがる原動力となります。区間ごとに温かく熱烈な応援をいただいて走れる選手は、本当に幸せ者だと思います。今回の優勝も皆さまと共に勝ち取れたものです。選手たちはこれからも5連覇を目指して頑張ってくれと思いますので、引き続きご支援、ご協力のほどお願いいたします。

総合成績 10時間57分39秒 第1位

往路 大手町～箱根・芦ノ湖 107.5km 5時間29分05秒 第2位 **復路** 箱根・芦ノ湖～大手町 109.6km 5時間28分34秒 第1位

往路



1区 大手町～鶴見 21.3km

鈴木 壘人 選手

総合文化政策学部2年
区間5位 1時間02分41秒

絶対に遅れられない1区のプレッシャーの中、走りを楽しむ余裕はありませんでした。そんな中、沿道の皆さんの応援もあり、粘りのある走りでしたと思います。



2区 鶴見～戸塚 23.1km

森田 歩希 選手

社会情報学部3年
区間1位 1時間07分15秒

昨年までエースの先輩が走っていた区間は今年は自分が走り、区間賞を取ることができました。これからは主将としてチームをまとめ、一丸となって5連覇を目指します。



3区 戸塚～平塚 21.4km

田村 和希 選手

経営学部4年
区間2位 1時間02分41秒

1年生の時に4連覇するという目標を掲げ、それを達成することができました。金メダルは4つありますが、その年ごとに異なる思い出が詰まっているので、どれも違う輝きです。



4区 平塚～小田原 20.9km

梶谷 瑠哉 選手

教育人間科学部3年
区間9位 1時間03分39秒

4連覇で嬉しい結果になりましたが、チームや監督の期待に応えるような走りできませんでした。練習をしっかり積み直し、来年はチームの力になるように頑張ります。



5区 小田原～箱根 20.8km

竹石 尚人 選手

総合文化政策学部2年
区間5位 1時間12分49秒

往路の連覇を取りこぼしてしまったのが悔しいので、来年リベンジして往路優勝のテープを切りたいです。そして復路は6区から安心して走ってもらえるよう努力したいと思います。

復路



6区 箱根～小田原 20.8km

小野田 勇次 選手

経営学部3年
区間1位 58分03秒

往路の選手がしっかりとつないでくれたので、6区で逆転してある程度の差を広げて7区につなげることができました。区間賞は取れましたが、来年は57分台の区間新記録が目標です。



7区 小田原～平塚 21.3km

林 奎介 選手

理工学部3年
区間1位 1時間02分16秒

6区で差を広げてくれたので気持ちよく自分の走りができましたが、まさか区間新記録でMVPまでいただけとは思っていませんでした。チームの仲間と沿道の応援に支えられました。



8区 平塚～戸塚 21.4km

下田 裕太 選手

教育人間科学部4年
区間1位 1時間04分46秒

走っている間、常に沿道の方が名前を呼んで応援してくださいました。名前を覚えて応援していただいたことに感謝しながら走りました。これからも青学をよろしくお願いします。



9区 戸塚～鶴見 23.1km

近藤 修一郎 選手

社会情報学部4年
区間9位 1時間11分51秒

他の選手がリードしてくれたおかげで楽に走れました。実績のなかった自分を最後の箱根駅伝で走らせてくださった監督に感謝しています。素晴らしい経験ができた4年間でした。



10区 鶴見～大手町 23.0km

橋間 貴弥 選手

社会情報学部3年
区間2位 1時間11分38秒

1区間ごとにメンバーが後続との差を広げてくれたので、先頭でゴールテープを切ることができました。今後は自分がキーマンとなってチームを引っ張れる存在になりたいです。



Message

選手たちに
真の自主性が芽生えました

原 晋 監督

多くの方のご声援とご支援のおかげで、箱根駅伝4連覇を達成することができました。選手たちが10区の選手を迎えるためにゴール地点で肩を組んで歌ったカレッジソングは、私の胸にも響きました。今回のチームは、選手と私の間で何度も話し合いを重ねる中で真の自主性が芽生え、最終的にとても良いチームに成長しました。選手は皆、特別な存在ではなく、日頃授業にもしっかり出席し寮で暮らし練習もするという、当たり前のことを当たり前のようになっている青学の一学生です。青学生の皆さんもできることを精いっぱい頑張り、青学生であることを誇りに思って生活してください。われわれ陸上競技部も皆さんの模範となるような態度を心がけ、5連覇6連覇と続けられるようにしていく所存です。



Message

7区区間新記録を樹立し、
金栗四三杯(MVP)を獲得!

林 奎介 選手 理工学部 機械創造工学科3年

青学の陸上競技部で走ることを目標に入学しました。1年目は故障ばかりで思ったように走れず、2年目は区間エントリーに入り走れる可能性がありながらも、憧れの箱根駅伝にはなかなか手が届きませんでした。今回は調子もどんどん上がって手応えを感じていたので、16人のエントリーに決まったときは「必ず走る」という強い思いでいました。区間賞は目標にしていたのですが、まさか初めての箱根駅伝で区間新記録を出せた上に金栗四三杯(MVP)までいただけとは思わず、想定外の嬉しい結果になりました。勉学も研究や課題で大変ですが、文武両道で練習と両立させながら、箱根駅伝5連覇と区間賞を狙いたいと思っています。



報告会 January 3, 2018



優勝報告会 January 16, 2018(Aoyama)



January 18, 2018(Sagamihara)



優勝パレード (湘野辺) January 28, 2018



報告会など関連イベントを開催

2017年12月12日(火)、青山キャンパスにおいて「出場壮行会」、2018年1月3日(水)夜にはアイビーホール青学会館にて「報告会」を開催しました。今年は両キャンパスで「優勝報告会」が開催され、16日(火)青山キャンパスには約1,000名、18日(木)の相模原キャンパスには約500名の方々にご参加いただきました。さらに28日(日)には、ここにこ星ふちのべ商店会主催の「優勝パレード」が行われました。3月10日(土)にセルリアンタワー東急ホテルにて「箱根駅伝4連覇祝勝会」が行われる予定です。



Message

プレッシャーも力に
最高の結果を残せました

伊藤 雅一 主務 社会情報学部 社会情学科4年

昨年度が大学3大駅伝3冠に箱根駅伝3連覇という結果だったため、この1年間チームはプレッシャーとの闘いでもありました。しかも出雲、全日本と優勝を逃してしまい、選手たちは心理的に苦しい時期もあったと思います。しかし落ち込むのではなく、むしろ「何としても箱根は勝つ」と奮起し、プレッシャーも力に変えて4連覇という最高の結果を出してくれました。また、この1年、主務としてさまざまな方と関わる機会があったことで、自分たちが驚くほどたくさんの方々を支えていただいていることを改めて知りました。本当にありがとうございました。これからは後輩たちの応援を、どうぞよろしくお願いします。

第29回 出雲全日本大学選抜駅伝競走

総合成績 2時間13分32秒 第2位

2017年10月9日(月・祝)、「第29回出雲全日本大学選抜駅伝競走」が開催され、計21チームが出場し、45.1kmを6区間でつなぎました。1区の梶谷瑠哉選手が8位で2区の田村和希選手ヘタスキをつなぐと、田村選手は区間初の快走を見せ3位まで順位を押し上げました。3区の下田裕太選手は最後にスパート、トップに躍り出たところで4区の小野田勇次選手へ。トップと14秒差の2位で5区のルーキー、神林勇太選手ヘタスキを渡します。区間3位の走りでアンカーへつなぎ、神林選手と同じく大学3大駅伝デビューとなる橋詰大慧選手が順位をキープしたままゴール。大会3連覇を目指しましたが、惜しくも第2位という結果になりました。



アイビーリーグ選抜チームと 交流合宿を開催

2017年10月9日(月・祝)から11日(水)、出雲駅伝に出場した米国東部の名門8大学で結成されるアイビーリーグ選抜チームと、陸上競技部(長距離ブロック)との交流合宿が開催されました。両チーム監督による講話や、相模原キャンパスグラウンドでの合同練習が行われ、選手たちは和気あいあいとした雰囲気の中、練習に取り組みました。



秩父宮賜杯 第49回 全日本大学駅伝対校選手権大会

総合成績 5時間15分22秒 第3位

2017年11月5日(日)に開催された「秩父宮賜杯 第49回全日本大学駅伝対校選手権大会」で、本学チームは第3位という結果に終わりました。1区の中村祐紀選手が先頭と1分22秒差の10位で2区の田村和希選手へ。田村選手は区間賞の快走で6位まで順位を上げ、トップとは57秒差に。3区の梶谷瑠哉選手が順位を1つ上げ、昨年同大会のMVPに輝いた4区の森田歩希選手も3位まで浮上します。5区の下田裕太選手で4位になるもののトップとの差を6秒縮め、6区の竹石尚人選手で再び3位へ。7区の小野田勇次選手、そしてアンカーの鈴木聖人選手と、そのままの順位でゴール。各大学の実力が伯仲した最後まで目が離せない大会となりました。



AOYAMA SPORTS NEWS

本学の取り組みが平成29年度スポーツ庁委託事業(日本版NCAA創設事業)に採択

本学の大学スポーツの推進と地方創生に関する取り組みが、2017年9月にスポーツ庁委託事業「大学横断的かつ競技横断的統括組織(日本版NCAA)創設事業(大学スポーツ振興の推進)」に採択されました。本学は、これまでの改革と実績を基盤として、日本が直面する少子高齢化社会に求められる健康長寿の実現に向けた、地方創生型大学スポーツ提案拠点の形成を進めています。

今回は、駅伝による地域住民の結び付きの強

化・地域活性化を目的とする青学米原駅伝の開催(下記参照)と、Bリーグに所属するプロバスケットボールチーム「日立サンロッカーズ東京・渋谷」の青山学院記念館(大学体育館)のホームアリーナ化へのさらなる取り組みの2つの事業を進めています。

また学生生活部スポーツ支援課では、施設管理や大学スポーツ支援などを行うスポーツアドミニストレーター(SA)を配置しました。大学スポーツを学外の組織や自

治体と連携し、発展させることができる高い専門性を持ったSAを育成します。今後も、さらなる大学スポーツを通じた教育力の向上と社会貢献・地方貢献の進展に取り組んでいきます。



MAIBARA×AOGAKU駅伝を実施(日本版NCAA創設事業)

2017年10月1日(日)、滋賀県米原市にて、「My原(マイバラ)体育の日イベント〜原監督体育体験授業・MAIBARA×AOGAKU駅



伝〜」を実施しました。日本版NCAA創設事業の一つとして、包括連携協定を結んでいる米原市と本学の共催で行われました。米原市・スポーツ応援大使である原晋本学陸上競技部(長距離ブロック)監督による公開講座と駅伝大会の2部構成で行われました。公開講座では、原監督による会話の大切さや成長のコツに関する授業が行われ、小中学生に加え、500名を超える一般参加の米原市民

の方々も熱心に耳を傾けました。また、本学陸上競技部が実施する青トレも伝授され、部員3名による実演も交えながら、走る前に行う準備運動などを体験しました。駅伝大会は、本学陸上競技部チームと米原市の小中高生や一般の方々からなる20チームが参加。秋晴れの下、参加者の方々は、本学陸上競技部の選手たちの速さを体感しつつ、さまざまな人との交流も交えながら駅伝を楽しめました。

バレーボール部(女子)が全日本インカレで優勝

2017年11月27日(月)から12月3日(日)に開催された「第64回秩父宮妃賜杯全日本バレーボール大学女子選手権大会ミキプルーンスーパーカレッジバレー2017(全日本インカレ)」で、本学バレーボール部(女子)が、9年ぶり5回目の優勝を果たしました。秋山美幸監督就任1年目の本学は、決勝戦で前回大会準優勝の筑波大学と対戦。相手の高い攻撃力に苦しめられましたが、持ち味の全員バレーでフルセットの激闘の末、栄冠を

勝ち取りました。秋山監督は本学卒業生で、学生時代は主将として大学5冠達成にも貢献しました。大会では文学部史学科4年の比金みなみ選手が最優秀選手賞、法学部法学科4年の坪川夏音選手がレシーブ賞、秋山監督が優勝監督賞をそれぞれ受賞しました。

12月8日(金)には、平澤典男部長(地球社会共生学部 学部長 同教授)、秋山監督、生瀬良造前監督と、4年生メンバー9名が学長室を訪れ、三木義一学長をはじめとした大学

執行部に優勝報告を行いました。また、2018年1月10日(水)には、渋谷区長にも表敬訪問を行いました。



青山学院記念館(大学体育館)が「第4回アリーナ オブ ザ イヤー」を受賞

一般社団法人アリーナスports協議会は、日本のアリーナスportsが持続的に自立可能な発展をすることを願い、その拠点としての



一般社団法人アリーナスports協議会 代表理事 村林裕氏(左)、三木義一学長

「アリーナ」作りを目指している、その年で最も優れたアリーナを表彰しています。青山学院記念館(大学体育館)は、1964年に建てられた体育館ながら、2016年より「日立サンロッカーズ東京・渋谷」のホームアリーナとなり、プロスポーツのトップリーグの本拠地として初めて使用される大学の体育館としても、注目されています。

「1964年当時既に『観るスポーツ』を意識した造りは、現代に通用するだけでなく、大学スポーツの持つ力を今に伝える貴重な資産である。その動きは『日本版NCAA』の原動力となり、これからの日本のスポーツの行く末を照らす松明の役目を果たしている」と評価されたことが、今回の受賞につながりました。

インターンシップ制度がスタート



2013年、本学はアディダス ジャパン株式会社とスポーツ分野におけるパートナーシップ契約を締結しました。スポーツに関する教育研究、スポーツを通した国際交流、地域貢献、地域活性化などを目的とし、これまでも経営学部マーケティング学科の授業を通してアディダス ジャパンからの講師派遣や、共同企画商品の発売などさまざまな共同事業に取り組んできました。

就業体験を通して視野を広げ、習得したものを学生生活やキャリア形成にも生かせることから、2017年度より、アディダス ジャパン株式会社においても、本学と提携したインターンシップがスタートしました。アディダスおよびリーボックブランドの製品販売とその付帯事業を行う企業内で、販売からバックオフィスまでのさまざまな就業体験と、課題に対するプレゼンテーションを行いました。今回は、インターンシップを体験した学生2名のコメントを紹介します。

ビジネスの現場に立ち会えたことは貴重な経験になりました

島田 禅さん

総合文化政策学部 総合文化政策学科3年 東京・私立青山学院高等部出身



最終日のプレゼンテーション

毎日が刺激的でとても楽しい2週間でした。一番印象に残っているのは、何度も野球場に連れて行っていただくなど、実際にビジネスの現場に立ち会えたことです。中でも契約選手に挨拶させていただき、アスリートとスポーツメーカーの関わり方を肌で実感できたことは、将来アスリートのマネジメントやスポーツメーカーの選手契約担当など、アスリートと直接関われる仕事がしたいと考えている私にとって貴重な経験となりました。働く環境も一般的な日本企業と異なり、フレックスタイムが採用され、社員の方がさまざまな時間に出退社することや、フリースペースや屋上などに共同の作業スペースがあることに驚くと同時に、働きやすい環境が整えられていて素晴らしいと感じました。その一方で、社内で飛び交う英語での会話に、私自身も英語力をさらに身に付けなければいけないと再認識しました。最終日に行われたプレゼンテーションの準備は大変でしたが、多くの社員の方からアドバイスをいただいたおかげで、自分の知識やスキル以上のものを作ることができ、今までに感じたことのない達成感を得られました。この貴重な経験を今後のキャリアに生かしていきたいです。



マーケティングの講義を受けているところ

今の自分が身に付けるべきものに気付くことができました

藤原 千佳さん

経営学部 マーケティング学科3年 北海道・私立遺愛女子高等学校出身

インターンシップに参加したことで、アディダス ジャパンのような大きな企業でも地道な努力を大切にされていることを知り、大変驚きました。例えば都内の高校生にシューズを試し履きして、商品を知ってもらう“try-on”や、常にコミュニケーションを取りながら信頼関係を築く契約選手との面談などです。そのような現場に同行させていただき、幅広い層の顧客、さらにその一人一人の声を大切にしている真摯な姿勢を目の当たりにして感銘を受けました。FIFAワールドカップ™アジア最終予選の試合の際は、社内でのパブリックビューイングに参加させていただきました。社員の皆さんが同じユニフォームを着て応援し、スポーツの楽しさを共有している姿にとっても感動しました。また、今回の経験を通じて、どのような課題に対しても自分から積極的に興味を持ちチャレンジする姿勢が必要であり、社会人になるまでに主体性や積極性を身に付けることが私自身の課題であることにも気付くことができました。インターンシップに参加する前よりも、視野が広がったと思います。何もかもが自分の糧となった素晴らしい体験をこれから先に生かせるよう、残りの学生生活を過ごしたいと思います。



都内の高校にtry-onに行った際の様子



最終プレゼンテーションを終えて

TOPICS

青山学院大学 副学長就任式を挙行



阪本浩新副学長

2017年12月18日(月)、本部礼拝堂において「青山学院大学 副学長就任式」が執り行われました。祈祷が捧げられた後、就任にあたっての「誓約」が、梅津順一院長、そして新しく大学副学長に就任する阪本浩文学部史学科教授(前文学部長)により行われました。

三木義一学長は「これまで文学部長として文学部をまとめ支えてもらいました。これからは執行部の一員として一緒になって、本学をさらに良い大学にしていくために努力をしていただくことになります。皆さまのお支えをお願いいたします」と述べました。

続いて、新任の阪本副学長より就任の辞が述べられました。阪本副学長は、「本学がキリスト教主義とリベラルアーツを掲げた学校が原点になっていることに思いを馳せます。時代の変化の中で、時代の要請

に応えていかねばならない使命を負っています。そのような今こそ、その原点に立ち返ってさらなる発展が期待されるのではと考えます。“一流の大学”を目指す、しかし本学にしかない個性とは何か、校風とは何かを考えた上でこそ、さらなる発展ができるものと考えます。微力ながらお手伝いさせていただきたいと思います」と抱負を述べました。大島力学院宗教部長の祝祷をもって就任式は終了しました。



誓約(左から阪本浩新副学長、梅津順一院長、大島力学院宗教部長)

本学と東京外国語大学が、教育研究促進に関する基本協定を締結



協定書を交わす立石博高東京外国語大学長(左)と三木義一学長

本学と東京外国語大学は2017年11月1日(水)、「連携・協力の推進に関する基本協定」を締結しました。

この基本協定は、学生の交流、単位互換および学生の教育研究指導、プロジェクト研究およびシンポジウム等の共同実施、学術研究資料・刊行物・情報等の活用、大学の施設・設備の利用等において、両大学の連携・協力の推進を図ることを目的としています。本学で行われた調印式では、立石博高東京外国語大学長と三木義一学長が協定書に署名し、固く握手を交わしました。

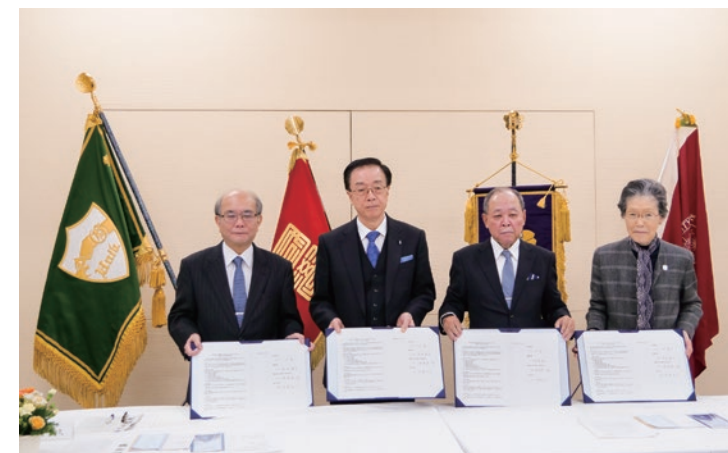
本協定の締結により、両校の資源を活用し、多言語・多文化を学び国際社会で活躍できる人材の養成など、さまざまな取り組みを行います。

渋谷区内4大学包括協定を締結

渋谷区内の4大学、青山学院大学(渋谷区渋谷4)、國學院大學(渋谷区東4)、実践女子大学・実践女子大学短期大学部(渋谷区東1)、聖心女子大学(渋谷区広尾4)は、2017年12月19日(火)、4大学による包括協定締結式を、本学青山キャンパスの6号館1階第4会議室で行いました。式の中で三木義一学長は「渋谷という恵まれた立地条件を生かし、知恵を出し合って新しい魅力を発信したい」と述べました。

この協定は4大学が連携・協力することで、各大学の持続的な発展と多様な価値観に基づく新たな価値の創造に寄与することを目的としたもので、世界が注目する国際都市・渋谷から研究・教育・スポーツ・国際交流などを通じ社会に成果を還元するものです。

今後4大学は、大学間の連携事業の円滑な推進を図るため、連携協議会を設置し、積極的に協議していきます。



左から青山学院大学 三木義一学長、國學院大學 赤井益久学長、実践女子大学・実践女子大学短期大学部 城島栄一郎学長、聖心女子大学 岡崎淑子学長



AGU Lecture 087



比較法の時間と空間

松本 英実

法学部 法学科教授

法学部の学生は日々、日本の法を中心に学んでいます。本ゼミナール(ゼミ)は少し別の角度で、時間的・空間的に広いスパンから法というものを比較・検討していきます。

時間では古代までさかのぼります。現在使われている各国の法は古代ローマ法をもとに積み重ねられています。契約という言葉も当時から始まりました。学生たちにはそのことを感覚的にもつかんでほしいのです。また空間では法の考え方の違いを知ります。今の各国の法律は西洋由来です。大航海時代、ヨーロッパの人々は自分たちの身や財産を守るため、行く先々に自国の法を広めました。しかしそこには判例重視の英国式と条文重視のヨーロッパ大陸式の2種類の体系がありました。日本の法もそれらの影響を濃密に受けています。

ゼミではこれらに関わる文献を読みながら、自分の興味のある分野を見つけていきます。古今東西の法の概念を理解するため、英語、時にはフランス語も用います。また、夏休みには英国のオックスフォード大学で行う1カ月間の海外研修にも多くのゼミ生が参加します。契約法や古典学などの集中講義を通して英国の法の考え方を学び、さらに弁護士事務所や裁判所なども

訪ねます。授業はオックスフォード大学式の、常に自ら考え、意見を提示しなければならないスタイルです。この内容を、海外研修に参加しなかった学生に対してもゼミで取り上げて学んでいます。

法というものは解釈が重要です。古代ローマから現代まで積み上げられてもなお、私たちはその解釈に迷います。だからこそ、時間・空間を超えたさまざまな考え方に触れることが大切です。その中で学生たちには、自分にとっての幹となるものを見つけてほしいと思います。法曹の道に進まなくても、社会に出れば必ず法律に直面します。そのとき、基本的な考え方を理解していれば大きな強みになることは間違いありません。

法の世界は広大な海のようなもので、その時空の中に自分自身を位置づけてみてほしいと思います。指導で心がけているのは、その中で学生たちが何に関心を持てるかを一人一人に見つけてもらうことです。ゼミは現在3、4年生8名で、雰囲気は和気あいあいとしています。3、4年生皆と食事に行き、賑やかに過ごすことも多いです。社会で人間がより安心して生きるために生み出し、今も変化を続けている法の奥深さを、本ゼミでぜひ楽しく探究してほしいと思います。



松本ゼミ学生
西崎 真由さん
法学部
法学科4年
東京・私立校成学園
女子高等学校出身

法学部に入学した時は、自分が何をしたいのか漠然としていました。ところが1年次の4月、たまたま海外研修の説明会で伺った松本先生のお話に興味を持ち、その年の夏に英国、2年次はアメリカ、3年次オーストラリアと3度の研修に参加しました。日本の法律知識もまだ浅かった1年次のうちに海外に飛び込んだおかげで、法の世界を広く捉えることができました。松本ゼミに進むことは1年次からの目標でした。

ゼミでは各国の法体系を学ぶ中、そもそも学問とは？ 自由とは？ と興味が広がり、4年次には「学問の自由」を卒論テーマとしました。松本先生は学生それぞれの疑問をどこまでも尊重してください。法の広い海から一人一人が自由に何かをすくい上げてくると、その先にある大切なことを示唆してください。先生ご自身が探究されている地域も、バルカン半島やギリシャなどどんどん広がり、私たち学生にとっても大きな刺激になっています。

鉄道業界に就職予定のため、将来は高速鉄道やリニアモーターカーの海外輸出に際し、ゼミで学んだ各国の法のベースが必ず役立つと思います。法の広大な海を巡る面白さを教えてくださった松本先生に心から感謝しています。

TOPICS

アカデミックライティングセンターがスタート！

2017年11月20日(月)よりアカデミックライティングセンター(AWC)が始まりました。AWCとは、近年、先進的な大学で取り組みが始まっている、学生の論文執筆をサポートするためのセンターです。大



学生にとって、論文やレポートといった学術的な文章を書くことは、これから社会に出て活躍するための、最も基礎的なコミュニケーション技術となります。授業だけでは覚えきれないさまざ

まなノウハウについて、大学院生のチューターが個別に指導することで、学生自身の論文執筆能力を高めていくことを目的として設立されました。特に国際化に対応し、英語論文の指導や、留学生の日本語論文・卒業論文などにも対応します。

45分単位の時間を区切って、個別に1対1で丁寧に教えてもらえるのが大変好評です。場所は青山キャンパス9号館1階(8号館図書館学習室の奥)です。相模原キャンパスでは4月より万代記念図書館2階(B棟)で開室予定です。図書館のウェブサイトから自由に予約ができますので、多くの学生の皆さんの来室を待っています。

(アカデミックライティングセンター長・文学部 日本文学科教授 近藤 泰弘 記)

映画『私たちが誇るもの～アフリカン・レディース歌劇団～』を上映



青山学院大学は、「国連UNHCR難民映画祭―学校パートナーズ」の参加校です。学校において同映画祭の上映作品の再上映会を開くのがその活動で、本学では総合文化政策学部「映像翻訳ラボ」(宮澤淳一研究室)が実施にあたっています(指導協力:日本映像翻訳アカデミー)。2017年度は、11月11日(土)の午後、青山学院アスタジオ地下ホールにて、映画『私たちが誇るもの～アフリカン・レディース歌劇団～』の上映会を行いました。同年度の映画祭において日本初上映された作品で、アフリカ出身でオーストラリア在住の難民・移民女性たちが、演劇を通して過去のトラウマを乗り



辻上奈美江氏
撮影：写真研究部 法学部2年 小倉久輝さん



携わったラボの学生たちや関係者たちと

越えていく物語です。字幕作成を手がけた学生15名が上映会を運営し、ゲストの辻上奈美江氏(東京大学大学院総合文化研究科特任准教授)のプレトーク「演劇を通じた癒し・苦悩・抵抗―シリア難民女性による演劇との比較」が作品の理解を深めてくれました。学生や一般の方々、計70名の来場があり、有意義なイベントとなりました。

(総合文化政策学部教授 宮澤 淳一 記)

外交評論家・岡本行夫氏講演会「激動の世界と日本の進路」を開催

―国際政治経済学部主催

岡本行夫氏は外務省退官後、岡本アソシエイツを設立し、現在は外交評論家としてメディアや学界等で活躍されています。



岡本行夫氏

今回の講演会では、東アジア・太平洋の安全保障環境を概観しつつ、北朝鮮、中国、ロシアの3国が、なぜ予測不可能な動きをするのかを、それぞれの国の近代史、指導者の生い立ちや国内の政

治過程に注目し、最新情報の分析結果をもとに説明しました。その上で、一国では対応が難しいそれらの国々からの脅威に、日米が協力して対処することがいかに重要かを論じました。

最後に岡本氏は、日本の東アジアとの関わりについての歴史に触れ、学生が国際人として立つためには、この問題と正面から向き合う必要がある点を力説しました。講演後の質疑応答の時間では、6人の学生から鋭い意見や質問が提示され、それを受けて講演者と学生の間で活発な討論が行われました。

2017年11月9日(木) 青山キャンパス17号館本多記念国際会議場にて(副学長(国際・広報担当) 国際政治経済学部教授 押村 高 記)

卒業・修了、進級および成績に関する日程

日 時	内 容	備 考
3月 8日(木)10時30分～	修了決定者発表・成績通知書開示 (専門職大学院)	卒業・修了決定者の成績通知書は、3月24日(土)まで学生ポータル上で閲覧 できます。
3月10日(土)10時30分～	卒業決定者発表 成績通知書開示(4年次生・大学院生)	
3月10日(土)	保証人宛成績通知書発送	卒業決定者には発送されません。
3月10日(土)13時00分～	修了決定者発表(大学院)	
3月10日(土)13時30分～	成績通知書開示(1～3年次生)	
	進級決定者発表	進級条件が設定されている学年のみ
	卒業見込可能者発表	理工学部・社会情報学部3年次生のみ
3月24日(土)	学位授与式	所属の学部・研究科によって時間が異なりますのでご注意ください。 詳しくは本学ウェブサイトをご覧ください。 3月の卒業発表後、保証人の方(専門職大学院は除く)宛にご案内状を発送いたします。

※詳細は学生ポータルや、本学ウェブサイトを参照してください。

春期休業期間中の窓口案内 〈2/1(木)～3/31(土)〉

2018年度 学事暦(学部)

年度初頭のオリエンテーション、履修ガイダンス、健康診断は学部・学科ごとに行います。

日時・場所の詳細は学生ポータルにて配信しますので、必ず確認してください。

前期	
4/2(月)	入学式
4/2(月)～6(金)	オリエンテーション、 履修ガイダンス、健康診断*
4/7(土)	前期授業開始
4/9(月)～13(金)	新入生歓迎礼拝
4/16(月)	前期履修登録最終日
4/30(月・祝)	授業実施日(昭和の日振替休日) (木曜日の授業を実施)
5/21(月)	ペンテコステ礼拝
5/21(月)～ 25(金)	チャペル・ウィーク(前期)
5/24(木)	ジョン・ウェスレー回心記念日礼拝
6/16(土)	アドバイザー・グループ・デー (青山・相模原キャンパスとも授業実施)
7/16(月・祝)	授業実施日(海の日)
7/24(火)	振替授業日(金曜日の授業を実施)
7/25(水)	補講日(青山・相模原キャンパスとも)
7/26(木)～8/2(木)	前期定期試験期間
8/2(木)～4(土)	清里サマー・カレッジ
8/3(金)～9/13(木)	夏期休業期間
9/29(土)	9月学位授与式

※青字は、宗教行事です。
※大学院・専門職大学院の学事暦は一部異なります。本学ウェブサイトや『大学院要覧』等を
参照してください。
※健康診断は青山キャンパス4/2(月)～6(金)、相模原キャンパス4/3(火)～6(金)に実施し
ます。

後期	
9/14(金)	後期授業開始
9/17(月・祝)	授業実施日(敬老の日)
9/25(火)	後期履修登録最終日
10/6(土)、7(日)	相模原祭期間(6(土)は相模原キャンパスのみ休講)
10/8(月・祝)	授業実施日(体育の日)
10/15(月)～19(金)	チャペル・ウィーク(後期)
10/31(水)	宗教改革記念日礼拝
11/2(金)～4(日)	青山祭期間 (青山・相模原キャンパスとも休講)
11/16(金)	創立記念礼拝
11/30(金)	授業実施日(創立記念日)
12/18(火)	クリスマス・ツリー点火祭
12/20(木)	クリスマス礼拝 (相模原キャンパス)
12/25(火)～2019年1/5(土)	冬期休業期間
1/7(月)	後期授業再開
1/15(火)	振替授業日(金曜日の授業を実施)
1/16(水)、17(木)	補講日(青山キャンパス)
1/16(水)～18(金)	補講日(相模原キャンパス)
1/18(金)～20(日)	大学入試センター試験および同準備日(18(金)、19(土) は青山キャンパスのみ休講)
1/22(火)～29(火)	後期定期試験期間
3/25(月)	学位授与式
	卒業礼拝(青山キャンパス)

2018年度 学費納付のご案内(学部・大学院)

2018年度在学生の学費(授業料、在籍基本料、施設設備料、教育活動
料および諸会費、学会費)納付は、前期・後期とも期限に遅れないようにし
てください。

納付のスケジュール

振込依頼書発送 4/12(木)予定
前期分・前後期分一括学費納入期限 5/1(火)
後期分学費納入期限 10/1(月)

納付にあたって

■振込依頼書は、前期分・後期分・前後期分一括納入の3種類を送付しま
す。教職課程・諸資格課程料の加算などによって後期分の納入金額が変
更となる場合を除き、改めて送付しませんので、4月に送付する振込依
頼書を保管の上、振込手続きをしてください。
■学部生の振込依頼書は、申し出がない限り、原則として保証人宛に送付
します。学生本人宛に送付先変更を希望する場合は、学生生活部学費・
奨学金課(青山キャンパス)・学生生活課(相模原キャンパス)に「学費振
込用紙送付先変更届」を提出してください。
■入金確認のため、大学より送付する振込依頼書を用いて、金融機関窓口
で納付してください(ATM・インターネットバンキングを利用される場合
は、同封の案内文に記載されている注意書きに従って手続きしてくださ
い)。なお、振込手続きの際、公的機関発行の身分証明書等の提示が必要
となる場合があります。詳細は各金融機関窓口にお尋ねください。
■最終年次において留年した場合、履修登録単位数によって学費が異な
ります。履修登録後に学費を算出するため、振込依頼書の発送および納
入期限は下表の通り予定しています。

	前 期		後 期	
	発送予定	納入期限	発送予定	納入期限
学 部 生	5/18(金)	6/1(金)	10/18(木)	11/9(金)
大学院生	5/25(金)	6/8(金)	10/25(木)	11/9(金)

相談・問い合わせ先

各種申請は、学生本人が直
接窓口へ来るようにしてくださ
い。個人情報取り扱いなどの
関係上、電話では承れません。
春期休業期間中の窓口開室日
時は本学ウェブサイトをご覧く
ださい。

①	保証人住所の変更 在学生住所の変更	青山キャンパス 相模原キャンパス	学生生活部 学生生活課 学生生活課
②	振込依頼書の送付先変更・再発行 学費の延納	青山キャンパス 相模原キャンパス	学生生活部 学費・奨学金課 学生生活課
③	振込手続き、学費一覧表	青山キャンパス	庶務部 経理課
④	休学・退学	〈学部〉 青山キャンパス 相模原キャンパス	学務部 教務課 学務課 〈大学院〉 青山キャンパス 大学院生：学務部 教務課 専門職大学院生：学務部 専門職大学院教務課 相模原キャンパス 学務課

2017年度 青山学院学術賞

「青山学院学術賞」は、専門分野の研究において、学術の進展に寄与すると認められる業績を発表し
た青山学院の専任教員に授与される賞です。2017年度は、大学から以下の2名が受賞しました。

■ 文学部 英米文学科 McCREADY, Eric S. Jr. 教授

【著書】 Reliability in Pragmatics
(Oxford Studies in Semantics and Pragmatics 4)
(Oxford University Press 2015.2)

■ 理工学部 経営システム工学科 松本 俊之 教授

【体系的研究】 現場主体の改善活動のマネジメント技術についての体系的研究



松本俊之教授(左)、McCREADY, Eric S. Jr. 教授(右)

青山学院校友会からのお知らせ

青山学院校友会ウェブサイト <http://www.alumni-aogaku.jp/>

青山学院には、卒業生同士の親睦を深め、母校との絆をつなぐ「青山学院校友会」が組織され、すべての卒業生が正会員として迎えられます。各学部・学科同窓会の他、国内55カ所・海外19カ所の地域支部、職種別団体や部活動OB・OG団体等が参加するアイビーグループによって構成されており、多彩な活動を行っています。卒業後はぜひ積極的に校友会活動にご参加ください。校友の活躍やニュース等は、年に3回発行する『あなたと青山学院』で紹介しております。学生食堂などで配布しておりますので、ぜひご覧ください。



「あなたと青山学院」
No.26

〈卒業生の皆さまへ〉

校友会の事務局は「青山学院校友センター」です。校友センターは卒業生の住所など基本情報を管理し、卒業生と母校青山学院とを結び窓口となっています。氏名、住所等に変更が生じた場合は、必ず校友センターへお知らせください。校友センターに寄せられた個人情報は「学校法人青山学院個人情報保護基本方針」に従い厳重に管理し、青山学院および校友会活動に関わることに活用されます。

青山学院の広報誌

卒業後『AGU NEWS』の発送は終了しますが、下記の広報誌を通して卒業生の皆さまに「青山学院の今」をお伝えしていきます。

『あなたと青山学院』

住所の判明している校友全員に定期的に無料でお送りしています。

〔住所変更・発送に関する問い合わせ先〕

青山学院校友センター TEL : 03-3409-6645 E-mail : agkoyu@aoyamagakuin.jp

『青山学報』

1916年創刊の青山学院公式機関誌。法人および幼稚園から大学・大学院までの青山学院の情報をお伝えしています。年4回の発行で、年間定期購読料は2,000円(送料含む)です。

〔定期購読に関する問い合わせ先〕 青山学院購買会 TEL : 03-3409-4401

2018年度 一般入学試験・大学入試センター試験利用入学試験報告

2018年度一般入学試験・大学入試センター試験利用入学試験はすべての試験が終了し、志願者数は、一般入学試験が49,855名(前年度47,751名)、大学入試センター試験利用入学試験は13,050名(前年度13,215名)で、合計62,905名(前年度60,966名)でした。

最も多い試験日で約7,000名の受験者が青山キャンパスに来校しました。本学学生団体(吹奏楽/バントフリング部、キャンパスツアーガイドボランティア、ボランティアセンター学生スタッフRoute)や入試アシスタント学生が、多くの受験者の正門入場や試験室への適切な誘導、試験室の監督補助などを行い、学生の大きな協力を得て2018年度一般入学試験は無事に終了しました。



正門で受験票を確認する「吹奏楽バントフリング部」の学生たち

Club & Circle 38 文化連合会本部

文化系部会約50団体をまとめ、活動を支える。

文化連合会本部(文連)は、文化系の部会(クラブ)約50団体をまとめる役割を担っています。本部役員は異なる部会から選出されており、部員証の発行や学生会運営委員会への出席、各部会への援助金配分、新入生勧誘行事の運営を行っています。男子8名、女子3名と部員数は少ないですが責任ある仕事が多く、「文化連合会をより充実したものにする」という目標に向かい、学年を超えて協力して活動しています。7月に行われた前期定例総会では、新しい試みとしてウェブアンケートを実施しました。その結果、改善しなければならない点も見つかりましたが、応援のコメントもいただき、励みになると同時に、これからどのように活動していけば良いか、各部会の代表と考える良い機会になりました。本部として約50団体をまとめることは大変なときもありますが、いつも質問に答えてくださる先輩、より良い文連にしていこう



とする同期と後輩、私たちの方針に協力してくださる各部会の代表、そしていつも親身になって支えてくださる学生生活課の方々の協力あつての文連です。多くの方々が力を貸してくださるからこそ、少人数でもさまざまな活動を行うことができているので、常に感謝の気持ちを持って活動しています。今後もますます各部会と文連が協力し合って、文化活動の発展に貢献していきたいです。

(本部長：文学部 日本文学科3年 赤坂 奈美 記)

AGU NEWSについて

青山学院大学では、大学広報誌「AGU NEWS」を発行し、在学生の保証人の方々へ送付しています。また、在学生を対象としてキャンパス内専用スタンドにて配布しています。

- バックナンバーは、本学ウェブサイトでご覧いただけます。
- 確実に保証人の方々へお届けするため、住所が変更になった場合は、学生ポータルを利用し、**学生本人が変更手続きを**してください。



● 2018年2月28日発行 ●